

修学旅行 大特集号

if
ichikawa family

いちかわファミリー

市川高校学校通信

ICHIKAWA Senior High School
School Life Profile Paper
ICHIKAWA Family vol.52

まぶしい太陽
華麗なオーシャン・ビュー
色彩豊かな風景

でも、みんなの笑顔の輝きは、
沖縄の太陽・海でもかなわない!
この輝きは、みんなの楽しい想いから!
そして、「if=いちかわファミリー」の心から!!

そんな、楽しい思い出を、みんなに少しでも
おすそわけしたい……
そんな想いが、この「if」には
詰まっています。



Contents

- [特集] 修学旅行
学びと笑顔の沖縄全記録
- [連載] 校長室だより
修学旅行の意味

52

きれいな世界

2年3組 渡邊 菜南

きれいで鮮やかな赤。これが私の中に一番強く残っている首里城の印象です。大きな門をくぐって進んでいくと、日本では感じられない雰囲気、外国に来たような感じがしました。たくさんの資料を見て琉球王国の歴史を知ることができました。「肌で感じる」というのはこういうことなのかなと思いました。琉球王国を肌で感じる事ができました。

首里城の次はグラスボートでした。ボートに乗るのを待っている間、きれいな海をバックにたくさんの写真を撮りました。クラスの人たちと海を見ながらの話は、すごく楽しかったです。グラスボートは海のない県に住んでいる私たちにはなかなか感じる事のできない潮風に吹かれ、なかなか見ることのできない海の中を見ました。沖縄の海はきれいで、様々な種類の色とりどりの魚がいました。水族館では見る事のできない自然の中の魚を見ることは初めてで、すごく良い経験ができました。すごくきれいでした。



4th day
11/20 Fri
▶クラス別行動



沖縄 2年2組 桐林 瑞穂

4日目の日程は沖縄ではクラス別行動をして、その後は飛行機とバスを使い帰るのみでした。

私たち2組は首里城と沖縄ワールドへ行きました。首里城では、途中までガイドさんに案内してもらい、正殿などは各自での見学となりました。内装は赤色が主で、ところどころに龍が描かれていました。正直、こーゆう所には住みたくないな〜と思いました。次の沖縄ワールドでは、ほとんどの人がお土産を買っていたと思います。お土産の他にもハブのショーや各種体験がありました。その後の昼食にはそばとゴーヤチャンプルーが出ました。ゴーヤチャンプルーはとても苦かったです。

沖縄でのすべての行程が終わり、帰りの飛行機では窓側の席に座ることができて嬉しかったです。夕日と富士山が綺麗でした。

この修学旅行の4日目はとても楽しく、良い思い出になりました。

校長室だより [連載] 52 修学旅行の意味



校長
丹沢 公彦
K. H. Taniya

「修学旅行」にはどのような意味があるのでしょうか？昔は、日本も貧しくて、なかなか家族で遠くまで旅行できない家庭が多かったため、自分たちが生活する地域とは地理的・文化的に異なる地域について学ぶ機会を提供し、併せて寝食を共にする集団生活を体験させる目的があった、と聞いたことがあります。

しかし、現代では、家庭で海外までも出かける時代であり、修学旅行以外にも部活合宿など学校での団体旅行もあり、修学旅行が持つ意味も変化していると思います。そこで、生徒にとっての修学旅行はどのような意味を持つのかを、各自が自分で考え、意味づけに参加することが必要であると私は考えます。本校では修学旅行の目的に照らして、事前学習のプログラムを組んでいます。その過程の中で生徒一人ひとりが自分にとっての修学旅行の意味を考えます。

「沖縄」への修学旅行というと、なんとと言っても「平和学習」は欠かせません。戦後70年経っても今なお残る米軍基地、その問題はますます混迷を深め、解決の糸口さえも見つからない状況が続いています。また、ひめゆり学徒隊をはじめとして戦争体験者は高齢化し、真実を語り継ぐことへの課題が突きつけられています。ただ、忘れてはならないことは、沖縄には、太平洋戦争以前にも長い歴史があり、そこでは本土とは違う地理的・気候の中で独自の優れた文化が育まれてきたということです。

長い歴史を有する沖縄には、全国から多くの中学・高校生が修学旅行で訪れています。その場所で、市川高校の生徒としての誇りを持ち、規律を守り、礼儀正しく気品を保って行動した生徒たちを頼もしく感じました。

発行 山梨県立市川高等学校
〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1733-2
tel.055-272-1161 fax.055-272-1164
URL: <http://www.ichikawa.kai.ed.jp/> Mail: info@ichikawakai.ed.jp

発行日 平成28年1月25日
編集 市川高等学校 広報委員会



1st day
11/17 Tue

羽田空港 ▶ 那覇空港 ▶ 沖縄県立博物館

空の玄関から 沖縄へ

2年3組 小澤 穂香
早朝に市川高校に集合した私達は、長時間バスに揺られながら沖縄に旅立った。沖縄に着く前に、まず立ち寄ったのは羽田空港だ。ここでは国際線ターミナル、第2ターミナルを班別で見学した。江戸の町並みをイメージした専門店街には、飛行機内で役立つグッズや日本のアニメのキャラクターグッズ、美味しい食べ物などいろいろなお土産が売っていた。日本人だけでなく外国人も魅了する工夫がたくさんあった。空港から飛行機に乗り沖縄に着くと、沖縄特有のからっとした暑さに身を包まれた。日本でありながら、本当に日本なのか疑ってしまうような南国の雰囲気心が躍った。元気の良い添乗員さんの案内のもと、バスで沖縄博物館に移動した。沖縄の人々の暮らし、歴史についての様々な展示があり、事前学習で学んだことをこの目で確かめられた。わくわくした気分が始まった沖縄修学旅行。たくさんの事を学んだ一日だった。

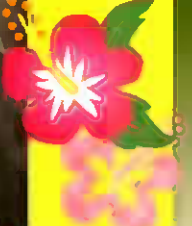
東京国際空港での時間

2年4組 村松 皓史
修学旅行初日、朝からとてもわくわくしていた。もちろん初日は沖縄に行くということも楽しみであったが、私が初日一番楽しみにしていたのは、東京国際空港見学そして飛行機に乗ることだった。私は空港・飛行機が大好きだ。だから楽しくないはずがなかった。高層から徐々に空港が見え始め、バスの中でみんなで歓声を上げた時間がとても楽しかった。そして、空港に到着し、グループ別見学となった。私たち4組男子+堀沢先生は空港の中を歩き回った。そして展望デッキに出て飛行機の大きさや迫力に圧倒され、みんなで感想を言い合った時間も楽しかった。その後、搭乗のためにシャトルバスで第2ターミナルへと向かった。そこで荷物検査などを受けたのだが、何もないと分かっているにもかかわらずドキドキした。東京国際空港での時間は修学旅行でのわくわく感をさらに強くさせてくれるもの、そんな時間だった。

沖縄着

2年3組 石原 将太
沖縄に着いて最初の見学地、沖縄県立博物館。沖縄の歴史や文化に触れることができました。展示物が多く、スペースも広かったので、時間いっぱい沖縄の歴史・文化・動植物を感じることができました。その中でも、個人的に印象に残ったのは、昔の住居をリアルに再現してあったこと、小さい人形で当時の稲作や採集などの生活を模写してあったことです。それによって、あやふやだった時代のイメージが見えてきて、より知識が深まりました。他にも、動植物の生態を映像で見ることができて、わかりやすかったです。そして、僕はしませんでした、三線の体験コーナーがあり、現代の沖縄特有の文化にも触れることができるようになっていました。沖縄最初の見学地、とても充実した時間になりました。

修学旅行 in



目の無い人々からのメッセージ

2年4組 信田 賀子
人の感情というものは大抵目を見て感じるもので、絵画においてもそれが人であれば、そのままざしから作者の意図を読み取ることができます。しかし、「沖縄戦の図」は、描かれた人物のほとんどには目が描かれていませんでした。目が描かれていない人々は、味方である善の日本兵に酷い仕打ちを受ける人もいれば、アメリカ兵の火炎放射器でガマもろとも焼き尽くされる人、海に身を投げたり爆弾を用いた集団自決により命を絶つたりした人など、いずれも普通に何事も無く生活していれば経験しないような地獄によって苦しめられていました。戦争という暗闇の世界に、人々が流す血が流れ、今の沖縄からは想像もつかないような光景が広がっていたということが、目の無い多くの人々の体全体から発散され、一枚の絵として伝わってきました。今、日本は世界の中でも平和で豊かな状況にありますが、「沖縄戦の図」は、それに甘んじて過去を忘れてはいけないと暗示しているように思えました。

70年間の音

2年3組 和久 智穂
ポタッポタッ、と、真っ暗闇の中で、静かに水滴の落ちる音が聞こえました。悲劇の沖縄戦争で、たくさんの人が声をひそめ、恐怖に震えていたあの日にも、この際の水は、同じリズムを刻んでいたのでしょうか。隣にいた家族を、冷たくともな、この場所で抱きしめ続けていたのでしょうか。この場所で一体何人の人が、声を上げることもできずに、死んでいったのでしょうか。私は、この轟々とした水滴の落ちる音を聞きながら、そんなことを考えました。際の中は、湿っぽくて蒸し暑く、また地面はごつごつして滑りやすく、とても快適と言える場所ではありませんでした。痛くても苦しいと言えない、苦しくても苦ししいと言えない、そんな状況で強いられる軍での生活は、私の想像をはるかに超えるものだったのだと思います。戦争は、失ったものがあまりに大きく、得たものは何だったのでしょうか。私は、今こうやって生きていられて幸せです。未来を生きて人として、生きたかった人の分まで一生懸命生きていきたいと思っています。



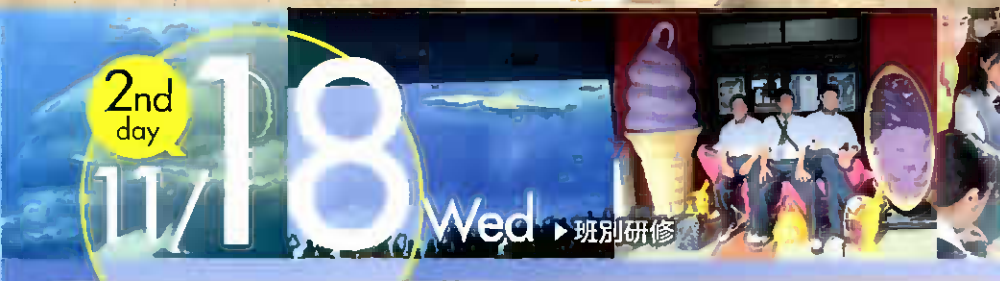
佐喜真美術館

平和祈念公園にて

2年1組 古屋 亜胡
講話では、沖縄戦争についての話を聴きました。修学旅行前に戦争についての勉強はしていましたが、沖縄戦争については深く知りませんでした。新里さんのお話を聞いて沖縄戦争について深く知ることができました。新里さんの話し方は、言葉に深い思いがこもっていて、とても心に響きました。新里さんのお話を聞いて、戦争は勝っても負けても多くの人の心に傷を残し、苦しめるものだと思います。平和祈念公園の資料館は、戦争に関する資料がたくさんありました。戦争で使われた砲弾などもありました。講話を聞いた後に資料館を見学したので戦争の様子を想像でき、とても悲しい気持ちになりました。そして、亡くなられた方たちの名前が刻まれている石を見ました。名前の数はとても多くて信じられませんでした。私は、戦争は二度と起きてはならないことだと思いました。この平和をこれからも繋げていきたいと思いました。

沖縄で考える 平和

2年4組 榎原 由布子
修学旅行3日目。1日目は暑くてたまらなかった沖縄の気候にも慣れたこの日は、私にとって特別な1日となった。3日目の主な内容は沖縄に来た目的の一つでもある平和学習。まず、私たちは佐喜真美術館へ行った。「沖縄戦の図」に初めは恐ろしいという印象を持った。死んだ人には目が描かれていないという説明がされた。当時のアメリカの記者が言った「まるで地獄だ。」という言葉通りの「沖縄戦の図」だった。そしてお昼頃、ガマへ入った。中はとても暑かった。みんなで明かりを消して真っ暗にしたとき、水の音がずっと聞こえていた。真っ暗闇で何日もガマにいた人々はどれほど苦しんでいたのだろうか。平和祈念公園での平和講話では、「みんなには大きく羽ばたいて欲しい。戦争を止められるのは戦争が始まる前の平和な時しかない。」というメッセージをいただいた。3日目は沖縄の忘れてはいけない歴史と文化に触れた1日だった。



2nd day
11/18 Wed

▶ 班別研修

マリントラック

2年4組 渡辺 理紗子
私たちの普段の行いが良いせいか、修学旅行は4日間とも晴れました(笑)。気温は30度、山梨との気温の差は15度以上。そんな沖縄で2日目に私はマリントラックをしました。シュノーケリングとドラゴンボートの2つを体験しました。シュノーケリングでは、たくさんの魚たちを間近で見て、手を伸ばせばすぐそこにいる近さで終始興奮していました。エサやりもしました。美しい珊瑚礁に住んでいる魚たち。綺麗な海を大切にしていかなければいけないという、使命感を私は感じました。ドラゴンボートでは、潮風を肌で感じ、気持ちも爽快でテンションMAXの状態を楽しみました。ボートから落ちないように、必死にバランスを取りますが、なかなか難しく、しかしそのヒヤヒヤ感がとてもおもしろかったです。マリントラックは沖縄の魅力がたくさん詰まっています。沖縄はやっぱり「海」ですね。

タクシー研修

2年2組 小林 稜
沖縄での思い出で最も印象が強いのが2日目のタクシー研修だ。友達と沖縄の観光地を巡ることがとても楽しみで、事前学習のときから盛り上がりがあった。いざ沖縄に着くと、普段は見慣れない広く綺麗な海が目の前に広がり友達と感動した。2日目の朝、タクシー研修が始まるとまず、美ら海水族館に行った。大きな水槽に3匹のジンベイザメがいて、海の中にいるようだった。次に古宇利島に行った。ハートロックが印象的だ。お昼はソーキそばを食べて沖縄の料理を満喫した。万座毛では自然を体験し、道の駅かでなで沖縄の基地問題の重大さを知った。最後にむら咲きむらで芭蕉ひものアクセサリーを作った。ミサンガのように作ることでとても満足した。今回、貴重な体験ができたことが本当に嬉しかった。友達と一緒にということも絆が深まったし、何より沖縄の良さを知ることができた。たくさんの自然を残すようにこれから生活をしていこうと改めて思うことができた1日だった。

笑顔と 沖縄



沖縄



3rd day
11/19 Thu

佐喜真美術館・平和祈念公園・資料館

四日間

